

地球研「水土の知」プロジェクト(C-09)

インドネシア水利システム研究打ち合わせ会

日 時：2011年8月9日(火) 13:30~17:00 / 会場：地球研研究室4 打ち合わせスペース

参加者：渡邊紹裕(地球研; PL)、仲上健一(立命館大学)、水谷正一(宇都宮大学)、中桐貴生(大阪府立大学)、中村公人(京都大学)、加藤久明(地球研)、小山雅美(地球研)

打ち合わせの議題：1.参加者の自己紹介、2.プロジェクト進捗状況と趣旨説明、3.インドネシア水利システム調査研究の課題と方法

1.当面の計画について

- 1.1 8月20日~26日のWWW2011：地球研がブースを出しますが、渡邊先生は動向調査ということで出張します。なお、次年度のテーマは“Food Security and Water”となっています。
- 1.2 プロジェクトの研究会ならびにセミナーの実施について：毎月、実施をすることとします。
- 1.3 全体研究会について：11月中に決定が必要です。
- 1.4 ICSS(International Conference on Sustainability Science)-Asia(2012年1月；パリにて開催)：1セッションをC-09プロジェクトにいただけるということで、東京大学の福士謙介先生との間で話が進んでおります。

2.インドネシア水利システムに関する検討作業について：議論の結果について

- 2.1 インドネシアの現場に行つて方法論を詰めることが可能か？：南スラウェシ州では現地のほうで展開をしており、既にアクションは起きている。調査においては現地語を使用せざるを得ないため、現地のスタッフが主体となることが望ましい。
 - 2.2 調査方法について：基本的には「現地への委託」という形式を用いることとする。
 - 2.3 アンケート調査の注意点(1)：単に「情報を吸い取つて帰る」というイメージを与えることだけは避けたいといけない。これは、ショートステイ型の研究者の難しさもある。対策として、次年度以降に現地の協力研究者を「1か月~2か月ほど日本に招へいをして来て頂く」という形式をとりたい。(→次年度予算編成時の必須項目)
 - 2.4 アンケート調査の注意点(2)：現地をしっかりと視察しない限り、アンケートの構築は難しいため、初期調査がかなり重要なものとなる。また、河川調査は防災研に担当していただくことを考えている。
 - 2.5 調査対象の見込みをつける必要性について：これについては、(1)カウンターパートと問題意識をしっかりと構築をした上で、(2)アンケート調査に入っていく、という2段階のステップを必ず経ていくこととする。
 - 2.6 具体的な行動と予測される結果の設計について：これについては、2月までに具体的な行動と予測される結果の設計ができれば良い。また、11月に全体の研究会を2日ほど実施したいと考えている。なお、これについては11月の中旬~下旬となる予定である。
 - 2.7 研究スケジュールの構築(全体共通項目)：2012年3月までに実施すべき課題を早急に整理する。
 - 2.8 インドネシア調査：暫定的な予定として、9/13~20を予定している(未決定)。水谷・中桐・仲上チームが参加するが、これに関する現地への声かけは渡邊先生から行っていただく。なお、調査実施期間については、第1段階で水谷先生と中桐先生に決めていただいた上で進めていく。注意事項として、3週間前ならば事前に資金が出るが、そうでない場合は立替払いとなる。
→8月18日~19日にスケジュールを決めるということになりました
- 4.その他：各地域状況に関するこれから検討すべき事項(至急案件ではない)
- 4.1 スリランカ：誰かが主体となって取り組んでいただければ、ということで立命館大学のモンテ・カセム先生との連携を考慮することが挙げられた。
 - 4.2 エジプト：エジプトについては、高宮先生の帰国を待ってから今後の展開を検討する。なお、本件についてもエジプトにおける大学づくりとの関わりとの関係上、立命館大学のモンテ・カセム先生との連携を考慮する。